

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 教育相談 第130号

—小・中・高・特別支援学校対象—

平成23年10月発行

### 児童生徒の心情を大切にしたい呼出し面接の進め方

「呼出し面接」とは、教師が特定の児童生徒を呼び出して行う面接方法である。いじめなどの問題が発生した場合や気掛かりな児童生徒がいる場合に、教師の方から積極的に働きかける個別的な面接である。

学校における呼出し面接は、問題等が発生した直後に行うことが多いため、教師は説教的、説論的になりがちである。その結果として児童生徒が不満を抱いたり、反発する気持ちをもったりする場合が多い。

そこで、本稿では、児童生徒が洞察力を高め、望ましい変容を遂げることができるような、心情を大切にしたい呼出し面接の進め方や留意点について述べる。

#### 1 呼出し面接を行う教師の基本的な心構え

「生徒指導提要」（文部科学省 平成22年3月）では、呼出し面接の難しさとして、教師が指導しなければならないという焦りを強くもつと、その気持ちが児童生徒に伝わり、以後の展開に支障をきたすことを指摘している。

したがって、児童生徒の心情を大切にしたい呼出し面接を進めるためには、まず、教師自身が「今、どんな気持ちで子どもに向

き合おうとしているのか。」を冷静に振り返り、落ち着いた態度で向き合うことが必要である。

また、児童生徒にかかわる際は、児童生徒の動作や表情をきめ細かに観察し、「今、どのような心情でいるのか。」を推察しながら、児童生徒の心情に寄り添った働きかけをすることが大切である。

#### 呼出し面接を行う際の教師のチェックポイント

- 「指導しなければならない」という強い思い込みはないか。
- 児童生徒の取った行動に対して感情的になっていないか。
- 児童生徒が「呼出し=罰」ととらえるような説教的、説論的なかかわり方になっていないか。
- 児童生徒を信じ、望ましい自己変容を促していこうという気持ちがあるか。

#### 2 呼出し面接の進め方

児童生徒の心情を大切にしたい呼出し面接を行うには、「情緒の安定」、「考え方の方向付けと習慣の形成」の二つの場面構成を想定して進めることが大切である。

##### (1) 情緒の安定

呼出し面接は、教師の側から行われる。そのため、児童生徒は面接意欲に欠けるだけでなく、呼び出されたことに対する

不快感や拒否的感情をもつこともある。  
そこで、児童生徒からその緊張を解き、  
安心感を抱かせることが面接の基本となる。

その際、次のようなことに留意する必要がある。

#### 沈黙の理解

- 教師の語りかけや質問に対して、児童生徒は「別に、特に理由などありません。」などと答えたまま沈黙してしまうことがある。教師は常に児童生徒の気持ちを汲みとろうとする姿勢で、沈黙の理由を正しくとらえるよう努める対応が必要である。
- 無言であっても、動作や表情などから児童生徒の気持ちや感情はかなりの部分が理解できる。教師が理解したことをそのまま返すことによって話題が展開することもある。沈黙の意味を理解しようと努める教師の姿勢が児童生徒の心をひらき、以後の面接が円滑に進む。

#### 肯定的・共感的な受け止め

- 呼出し面接の際、児童生徒は教師の問いかけにそつなく答え、できるだけ早く切り上げたいという防衛的な意識が働くことが多い。児童生徒が自分の意思で語り、心の中のわだかまりをはき出すことができるように配慮することが必要である。そのことによって児童生徒は、楽な気分になり、新たな意欲がわいてくる。
- 児童生徒が話し始めたときは、話す内容と同時に、児童生徒の気持ちや感情を理解しようと努めなくてはならない。話す内容を評価するような姿勢では、本心や悩みを語らない。したがって、児童生徒自身の気持ちを最大限に尊重することが大切である。

## (2) 考え方の方向付けと習慣の形成

情緒が解放されることによって、児童生徒は心理的に安定し、自己洞察が進み、自らの力で望ましい生き方に対する基本的な方向付けができるようになる。しかし、多くの場合、自立や自己の可能性発揮のために、更に面接を必要とする。すなわち、継続的な呼出し面接を実施することで自分自身を直視して自己洞察を進め、そこから生き方を探ることができる

ように働きかけていくことが大切である。

その際、次のようなことに留意する必要がある。

#### 気持ちの整理と感情の明確化

教師は、児童生徒の話や気持ちを整理し、まとめて返し、感情を明確にすることが必要である。したがって、「あなたの話は、こう考えていいのですか。」「要するに、こういうことですか。」などと、児童生徒の話が一段落したときに、教師が聞いていたことを要約して児童生徒に返すことが必要となる。要約して返された内容から児童生徒が自分の考えを整理することができる。また、「とても辛かったんだね。」「くやしい思いを抑えている、そんな感じかな。」などと教師が理解したことを言葉にして返すことで、児童生徒は自分の感情を整理することができ、同時に自分の課題が明確になる。

#### 課題の明確化と課題解決の方向付け

教師は、児童生徒が課題に気づき、課題解決の方向付けができるように働きかけることが必要である。教師から「こんな自分になりたいんだよね。」など、話題が発展するように問いかけることで、児童生徒は課題を明らかにし、より深く自分自身の生き方を見つめることができるようになる。

児童生徒自ら望ましい生き方に対する方向付けができて、それに向けての意欲が高まったら、次は望ましい習慣の形成を図ることが大切である。

その際、次のようなことに留意する必要がある。

#### 見届け

学校での教育活動のみならず、家庭や地域での生活についてもきめ細かな見届けを行い、児童生徒の実態を把握することが必要である。そのためには、定期的に家庭訪問をしたり、家庭と連絡を取り合ったりするなどして連携を図っておくことが必要である。また、状況によっては、関係機関との連携も必要である。

#### 賞賛と励まし

児童生徒の頑張りや努力の過程を賞賛したり、励ましたりすることが必要である。そのことが児童生徒に「先生は、いつも見守ってくれる。」という安心感を与え、望ましい習慣を形成することにつながっていく。

### 3 心情を大切にしたい呼出し面接の実際

ここでは、児童生徒の心情を大切にしたい呼出し面接の実際について、万引きをした中学校男子生徒（A男）への対応を例に、そのポイントを述べる。

#### (1) 事例の概要

A男は、中学校1年生のときからサッカー部に在籍し、特に生活態度に問題はみられなかった。しかし、中学校2年生の夏休みから部活動を休みがちになっていた。家族構成は、父親と母親、小学校3年生の弟の四人である。

10月初旬、母親から担任へ、A男が書店でコミック雑誌を万引きしたとの連絡が入った。A男は、書店の店長に叱られた後、書店に駆けつけた警察官から補導され、母親同伴のもと指導を受けたようであった。母親によると、A男には衝動的な行動に対する反省の念がうかがえるが、今後の生活態度も含め、学校でも十分に指導してもらいたいとのことであった。

母親から連絡を受けた学校は、直ちに協議を行い、A男の万引きによる補導が初回であったことやA男と担任との関係が良好であることから、今後、二度と同じ行為が起きないように、担任を中心として呼出し面接を実施することにした。

#### (2) 呼出し面接の際に行った配慮

- 友達を介しての呼出しは、呼び役の生徒が何か知っているのではないかと、告げ口をしたのではないかなど、A男を疑心暗鬼の心理状態に追い込む危険性がある。したがって、休み時間に担任自らA男の所に行き、「万引きの件で」、「場所は、教育相談室で」、「放課後に30分程度話したいが都合はどうか」と問いかけ、A男を納得させた。
- 他の生徒に何か悪いことをして連れて行かれているという印象をもたせる恐れがあることから、担任は面接開始時刻の10分前に相談室に入室した。

#### (3) 面接の内容

**【情緒の安定を図る場面】**  
※ A男が教育相談室へ入室  
担任：「よく来てくれたね。ありがとう。どうぞ、いすに座っていいよ。」  
A男：「…。」（※黙ったままいすに座る）  
担任：「先生も座るね。☺。」  
A男：「…。」  
担任：「昼休みに話したけど、昨日の万引きの件で話があったんだ。時間は、大丈夫かな。」  
A男：「はい…。でも…。」（※不満そうな表情）  
担任：「でも…？ 自分の気持ちを素直に話していいんだよ。」  
A男：「だって、警察で注意を受けたし…。」  
担任：「そうか、警察で注意を受けたから、先生の話はいら  
ないってことかな。」  
A男：「ええ、まあ…。」  
担任：「先生は、頭ごなしに話をするつもりはないんだ。あなた  
にとって大事な出来事だっただけに、あなたの気持ちや考  
えを聴いておきたいからね…。それと、同じことが繰り返  
し起こらないように、昨日の出来事のことを一緒に振り返  
てみようと思ってるね…。そういうことでいいかな。」  
A男：「そういうことなら…。分かりました。」  
担任：「先生の気持ちを分かってくれてありがとうね。」  
A男：「はい。」

#### 対応上のポイント

- ----の箇所  
教師は、親和的な態度を取ることを心掛けた。
- ——の箇所  
教師は、A男の沈黙の意味を積極的に理解しようとする姿勢を心掛けた。（沈黙の理解）
- ——の箇所  
教師は、A男の不満そうな言動を察知した。そこで、A男に気持ちを述べさせ、共感的・肯定的に受け止めた。（共感的・肯定的な受け止め）
- ~~~の箇所  
教師の思いを自己開示することによって、A男の心のわだかまりを取り除いた。

【考え方の方向付けを図る場面】

担任：「万引きの出来事を丁寧に整理してみようか。」  
 A男：「はい…。」  
 担任：「店長に見つかった瞬間、どんな気持ちがあったの。」  
 A男：「やばいと思った…。」  
 担任：「そうか、やばいと思っただね。その後どうなると思っただのかな。」  
 A男：「警察官が来ると思って心配した…。」  
 担任：「警察官が来ると思って、心配だったんだね…。警察官が駆け付けた瞬間、どんな気持ちになったの。」  
 A男：「心臓がドキドキして、もう終わりだって感じになりました。頭の中も真っ白になって…。」  
 担任：「そうか、人生が終わったと感じたんだ…。頭の中も真っ白になったんだね。」  
 A男：「はい、最悪でした…。」  
 担任：「その後、お母さんも駆け付けたんだよね。お母さん…どんな顔をしていたの。」  
 A男：「顔が真っ青で、とても悲しそうな顔をしていました。」  
 担任：「そうか、とても悲しそうな顔をしていたんだね。」  
 A男：「はい、悲しそうでした…。」  
 担任：「ところで、今あなたは、どんな気持ちなのかな。」  
 A男：「あんなこと、しなければよかったと思う…。」  
 担任：「そうか、とても後悔しているんだね。」  
 A男：「もう、あんな思いは、二度としたくないし…。」  
 担任：「あんな思いを二度としたくないって思っているんだね。その気持ちをこれから大事にしたいんだ。」  
 A男：「はい。」

～2週間後の呼出し面接の様子～

【習慣の形成を図る場面】

担任：「B先生から聞いたけど、部活動を休まずに頑張っているそうだね。えらいなあ。」  
 A男：「はい。とりあえずレギュラーを目指して頑張ってみようかなと思って…。」  
 担任：「そうか、レギュラーになりたいのか。目標が見つかってよかったね。そういえば、この前、お母さんが『休日にA男が弟にサッカーを覚えてくれるようになった。』と話してくださったよ。」  
 A男：「えっ、そうですか。」（※笑顔を見せる）  
 担任：「お母さん、うれしそうに笑顔で話してくださったよ。」

対応上のポイント

□ ~~~の箇所

教師は、A男自身が「もう二度と万引きはしない。」という心情を抱くように、万引きが店長に見つかった瞬間と警察官が駆け付けた瞬間の心情に焦点を当てながら話を展開し、感情の明確化を図った。  
 （**気持ちの整理と感情の明確化**）

□ ----の箇所

教師は、初めから保護者の気持ちに成り代わってA男に説諭するのではなく、そのときの保護者の表情を想起させることで保護者の心情に気付かせた。

□ ~~~の箇所

A男に今の心情を尋ねることで後悔の念を表出させた。また、教師がその言葉を繰り返し伝えることで「もう、あんな思いは二度としたくない。」という気持ちを互いに確認し合うことができた。  
 （**課題の明確化と問題解決の方向付け**）

□ ——の箇所

部活動の顧問からの情報を基に部活動への取組を賞賛した。また、保護者からの情報を基にA男の望ましい行動を賞賛した。このことで、A男は自分の行動に少しずつ自信を深め、部活動や学習に積極的に取り組めるようになった。  
 （**見届け及び賞賛と励まし**）

問題行動の場合、校種によって対応に多少の違いはあると思うが、いかなる場合も児童生徒の心情を大切にされた対応が必要である。

呼出し面接は、それまでの教師と児童生徒の人間関係が反映される。呼出し面接を実り多いものにするためには、児童生徒が教師に安心して話せるような関係をつくっておくことが必要である。そのために教師は、日ごろから温かい働きかけを行ってお

くことが大切である。

－引用・参考文献－

- 文部科学省『生徒指導提要』平成23年 文部科学省
- 國分康孝著『カウンセリングの理論』1980年 誠心書房
- 文部省『学校における教育相談の考え方・進め方』

－中学校・高等学校編－平成2年 大蔵省印刷局

（教育相談課）